

No.	10	
コード	RT04-b	
開講形式	リモート	
区分	飼養	
科目	飼養 4 資源	
講師	中村純	
背景	ミツバチは必要な栄養を周囲の植物資源に依存する。一般的に半径 2～3km 程度の採餌圏を持ち、年間を通じて、そこにある植物を利用している。	
目的	養蜂におけるミツバチの飼養も、ミツバチが利用する植物相に依存して成立していることを理解し、よりよい資源を構築するためには何をすべきかを学ぶ。	
概要	ミツバチの採餌圏とその利用の実態、植物の蜜源・花粉源としての資源的価値、蜜源増殖の在り方について学ぶ。	
到達目標	・ミツバチの採餌圏を時空間的に把握できる。 ・採餌圏の植物相、ミツバチによるその利用実態を理解している。 ・蜜源増殖の考え方、実践方法の知識を得て、必要なときに応用できるようにする。	
講義内容	ミツバチの採餌圏は半径 2～3km、面積にして 1200～2800ha にも及ぶ。 ハチミツを採るための蜜源植物は、ミツバチを一年中養ってくれるわけではない。 花蜜を生産しない植物もミツバチはよく利用する。 花粉も花蜜もあるのに、他の植物の存在で利用性が変化することもある。 蜜源増殖か、養蜂資源増殖か？ 自分で作れるお花畑の価値。	
参考資料	「ミツバチの生物学を養蜂に活かす」	

